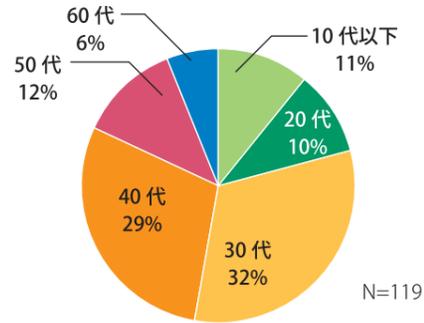


アンケート結果

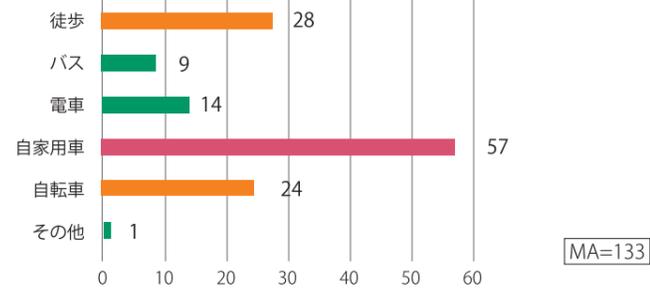
今年度はコロナ禍に見舞われましたが、来場者数は一昨を上回る延べ331名でした。そのうち123名の方々にアンケートにご回答いただきました。結果の一部をご紹介します。

Q. 回答者の年齢



今年も昨年と同様、回答者の8割強を40代以下が占める結果となり、なかでも10代以下の割合は昨年を上回りました。

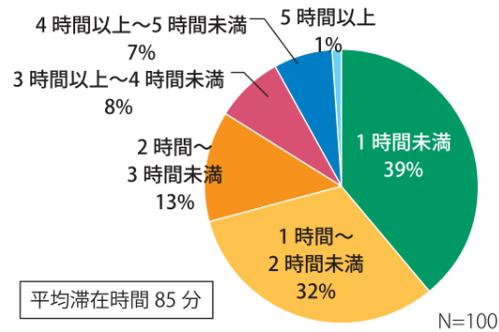
Q. 今日どの交通手段を使って来られましたか？ (複数回答)



今年も公共交通機関と徒歩による来場を呼びかけましたが、昨年と同じく自家用車が最多となりました。昨年と比較すると電車での来場者が減少し、バスの利用者は増加しました。

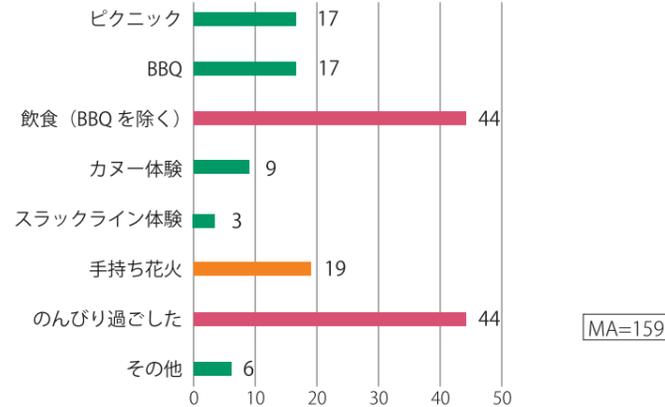
Q. 滞在時間はどのくらいでしたか？

※滞在中の場合は予定時間を回答。



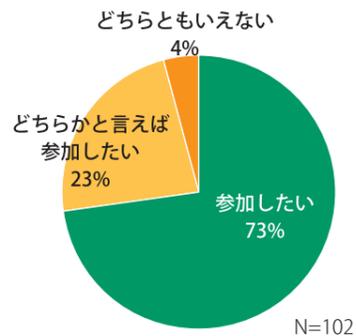
今回はステージや出店等を削減したこともあり、昨年よりも全体的に滞在時間は短くなりましたが、回答者の6割は1時間以上滞在したことが分かりました。

Q. 会場でどのように過ごしましたか？ (複数回答)



今年も昨年同様「飲食」が最も多く、一方で「のんびり過ごした」も同数となり、今回の企画趣旨をある程度達成できたと考えられます。今回初めて試みた「手持ち花火」は3位となりました。

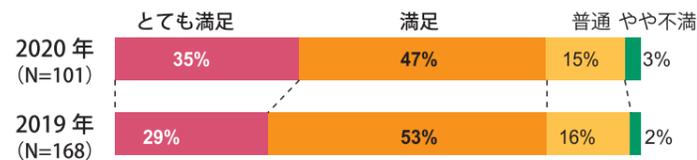
Q. 今後、感染症対策を講じた河川敷のピクニックイベントに参加したいですか？



今年度は新型コロナウイルスの流行により、入場時の検温・マスクの着用・感染拡大対策アプリのインストールなど、様々な対策を行いました。結果的には、多くの来場者の方々に安心して楽しんでいただけたことがうかがえます。

※全てのアンケート結果は市駅 GGP ホームページにて順次公開する予定です。
▶ <https://shiekigpp.wixsite.com/wakayama-ggp>

Q. 全体の満足度について



今回はコロナ禍で規模を縮小して開催しましたが、「とても満足」「満足」を合わせると前回とほぼ同じ割合となり、「とても満足」の割合は前回より増加しました。昨年のように多くの飲食店などの出店は実現できませんでしたが、多くの来場者の方々に満足していただくことができました。

編集後記

今年度は、新型コロナウイルスの流行により、例年に比べて様々な制約や課題がありましたが、地域の方々のお力添えのおかげで、無事に社会実験を実施することができました。関係者並びにご協力いただいた全ての皆様に、心より御礼申し上げます。
新しい生活様式が求められ、屋外のオープンスペースの利用に脚光が集まる中で、これからの河川敷利用の可能性を来場者の方々と共有する経験ができたことを嬉しく思います。
和歌山大学観光学部永瀬研究室
3回生 吉田 幹

市駅まちづくり通信 15

市駅“グリーングリーン”プロジェクト 2020

第15号 2020.11.07 発行：市駅まちづくり実行会議 編集：和歌山大学観光学部永瀬研究室



《夕暮れのシエキノカワでピクニック。》開催！

今年度の社会実験「市駅“グリーングリーン”プロジェクト」は、市駅ビル・駅前広場がリニューアルされる中で、市駅近くの紀の川の魅力を体感する社会実験として、9月13日(日)に「夕暮れのシエキノカワでピクニック。」を実施しました。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を踏まえ、ステージイベントや出店などの集客型コンテンツを削減・縮小しましたが、紀の川第5緑地に設けた「シエキノカワひろば」には県内外から300人以上の方々にご来場いただくことができました。

今年度は多くの人々が密集せずにくつろげる「水辺の憩いの場」となるようなピクニックエリアの創出に力を入れました。また、夕暮れ時を中心とした時間帯で開催したため、新たに会場入口から水辺に向かう動線のライトアップやくつろぎスペースへの灯りの設置、手持ち花火を実施し、居心地の良い水辺の空間をゆったりと楽しめる会場づくりを試みました。当日はご家族連れを中心に、多くの来場者がおだやかな水辺のひと時を過ごす様子が見られました。



和歌山市駅前広場がリニューアルします！

和歌山市駅の市街地再開発事業もほぼ完成し、6月5日には和歌山市民図書館と商業施設「キーノ和歌山」がグランドオープンしましたが、年内に和歌山市駅前広場もリニューアルする予定です。以前より広くなった歩行者広場の中心には、イベント等に活用できる「交流空間」が設けられ、多くの人々が集う新たな駅前の姿に生まれ変わります。

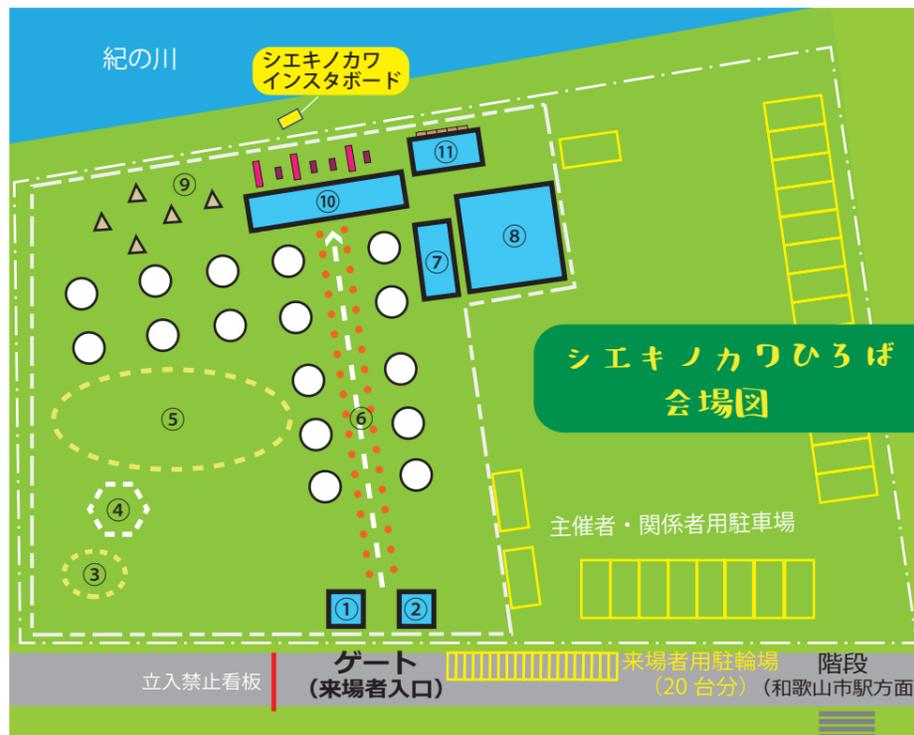
(出典) 和歌山市ホームページ
http://www.city.wakayama.wakayama.jp/kurashi/douro_kouen_machi/1001254/1022547.html



▲完成イメージ図(予定)

水辺のピクニックエリア

夕暮れの紀の川を間近に眺められるよう設けられたピクニックエリアには、昨年も設置したティピーテント、ハンモック、デッキチェアに加え、縁側をイメージして作られた畳ベンチや立ち飲み用のカウンターテーブルも設置し、多くの来場者の方々に利用していただきました。また今年も昨年に引き続き、山陽製紙のご協賛により同社のピクニックラグ CREP の無料貸し出しを行いました。今年はコロナ禍となり、屋外での活動が推奨されていますが、これらのアイテムを活用しながら、夕暮れの涼しい時間帯を中心に水辺でゆったりと過ごせる空間を創出したことで、親子連れを中心に多くの人々が思い思いに河川敷での時間を過ごす姿が見られました。



市駅「グリーングリーン」プロジェクト 2020

市駅近くの紀の川の可能性を体感する社会実験

シエキノカワでピクニック。

<凡例>

- ▲ ティピーテント
- パラソルテーブルセット
- ハンモック
- デッキチェア
- LED キャンドル

<会場図・番号説明>

- | | |
|---|---|
| ① 本部テント（来場者受付）
アンケート記入場所 | ⑦ BBQ 受付・飲食物販売
【出店】
和歌山市駅前商栄会
EAST ST. COFFEE SPOT
ORYZAE BREWING |
| ② カヌー体験受付
ピクニックラグ貸し出し
協力：山陽製紙株式会社 | ⑧ BBQ スペース |
| ③ スラックライン体験 | ⑨ 水辺のピクニックエリア
(ティピーテント等を配置) |
| ④ ヘキサタープテント | ⑩ 縁側テント |
| ⑤ 手持ち花火エリア | ⑪ 立ち飲み用テント |
| ⑥ 誘導灯（LED キャンドル） | |

ライトアップ

今年は夕暮れの河川敷を演出する企画として、入場ゲートから縁側テントまでの動線の両側に誘導灯を兼ねた LED のキャンドル型ライトを並べ、畳ベンチやパラソルテーブル等にカラフルなランタンを設置しました。

さらに紀の川を背景に幻想的な記念写真が撮影できるよう、ライトアップボード（シエキノカワインスタボード）を設置したところ、夕暮れ時に多くの来場者が写真撮影をする姿が見られました。



カヌー体験

今年も紀の川でのカヌー体験を、和歌山市のアウトドアショップ「エディーカヌースクール」のご協力のもと行いました。水上から紀の川の眺めを楽しめるカヌー体験は大変好評で、今年は事前予約で全ての組が埋まり、二人一組のペアで計 17 組の方々にご参加いただきました。非日常の水上のアクティビティは、河川敷の新たな魅力に触れ、楽しみの場として認知してもらうきっかけになることが期待されます。



手持ち花火

中央の芝生スペースでは、日没後に手持ち花火を楽しんでいただきました。参加者による持ち込みの花火に加えて、花火の無料提供も行い、多くの子供たちに楽しんでもらうことができました。普段は市が管理する公園緑地として花火は規制されていますが、社会実験として特別に許可を得て行うことができました。生き生きとした子どもたちの笑顔が印象的でした。



スラックライン

今回は堤防側の立ち木を利用して、昨年も好評だったスラックライン体験を実施しました。多くの子どもたちが繰り返し体験する姿が見られました。付近に設置したヘキサタープテントでは、子どもが遊ぶ様子をくつろいで見守るご家族の姿も見られました。



コロナ対策

今回はコロナ対策として、来場者には入場時の手指の消毒・検温を実施し、新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）のインストール、マスクの着用をお願いしました。また会場内のピクニックアイテムは定期的に消毒を行うなど、十分な対策を講じました。



入場ゲート

会場演出の一つとして、受付テントと一体となった「シエキノカワひろば」の入場ゲートを設置しました。テントの間にカラフルなガーランドを飾りつけ、河川敷のピクニック広場へと来場者をいざないました。



フード・BBQ

今年はコロナ禍のため、出店数を昨年より大幅に削減しましたが、水辺のピクニックエリアで飲食を楽しめるよう、フード販売を行いました。地元の市駅地区中央商栄会に加え、市駅周辺に店舗を構える「EAST ST. COFFEE SPOT」と「ORYZAE BREWING」が初出店し、コーヒーやクラフトビールの販売を行ったところ、いずれもご好評をいただきました。また恒例企画となった事前予約制の BBQ 体験も昨年と同様に大好評で、ほぼ満席となりました。

